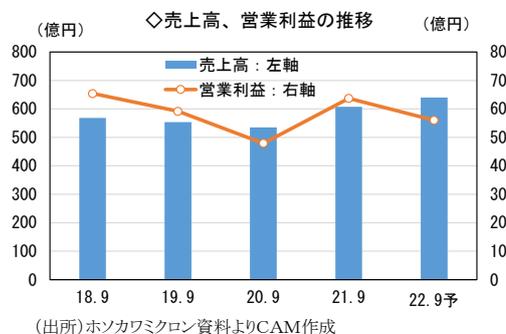


企業ニュース ホソカワミクロン

(東証プライム : 6277) <https://www.hosokawamicron.co.jp/> 作成者: 奥村義弘

微粉体関連装置のリーディングカンパニー

微粉体関連装置のリーディングカンパニー。1916年に細川鉄工所として大阪で創業。1930年に微粉碎機「ミクロンミル」を開発、世界で初めてミクロン単位の微粉碎を可能にした。欧米で有力な粉体機器メーカーを買収するなど、海外展開を積極的に進めてきた。粉体関連事業では、粉碎、分級、混合、乾燥などで豊富なラインアップを持つ。化学、医薬品、電子部品や二次電池関連など幅広い業界からの需要があり製造システムとしての販促に注力している。プラスチック薄膜関連事業では、ゴミ袋用、パッケージング用、ショッピングフィルム用、ラミネーションフィルム用などの多層フィルム製造装置を扱う。21.9期の売上高構成比は、粉体関連75%、プラスチック薄膜関連25%。



電池材料向け粉体関連装置の成長に期待

22.9期の会社計画は、売上高が640億円、前期比5%増、営業利益が56億円、同12%減。コロナ禍からの回復に伴う経費増、鋼材をはじめとする原材料費の上昇、大規模展示会への出店費用などを織り込んでいる。第1四半期末の受注残高は428億円、前年同期比38%増と高水準。一部主要部材の納品の遅れや、物流の混乱による納期の遅れなどの影響はあるが、粉体関連事業では、細胞培養培地用途を中心とした医薬向け、重質炭酸カルシウム粉碎システムなどミネラル向けが大幅に増加。前期に大型受注のあった二次電池を中心とした電子材料向けは反動減となったが、他用途・分野は堅調に推移している。プラスチック薄膜関連事業では、インターネット通販市場の拡大を受け、パッケージング用が好調、環境意識の高まりにより生分解性フィルム向け受注を獲得するなど引き続き需要は高水準で推移している。

中期3カ年計画では、24.9期に売上高670億円、営業利益67億円の目標を掲げている。原材料高などコスト増要因を織り込んだ保守的な計画との印象。リチウム電池市場や医薬品製造のための細胞培養培地を注力市場に位置付けている。ニッチ分野の高シェア企業として存在感が高い。

[株価動向・投資判断]

E V市場の拡大で、中長期でのポテンシャルの高さに関心が集まりやすいと考える。

<6277 ホソミクロン 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.9	53,497 (▲ 3)	4,791 (▲ 19)	5,007 (▲ 18)	3,317 (▲ 21)	205.0	110.00
21.9	60,754 (▲ 14)	6,370 (▲ 33)	6,574 (▲ 31)	4,699 (▲ 42)	290.1	135.00
22.9 予	64,000 (▲ 5)	5,600 (▲ 12)	5,600 (▲ 15)	4,200 (▲ 11)	259.2	70.00

(注) 21年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。20.9期、21.9期の1株利益は当該分割考慮後の数値、1株配当は実際の配当金額



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2022/4/22)	2,471 円
年初来高値 (高値日)	3,510 円 (22/1/6)
同 安値 (安値日)	2,348 円 (22/3/14)
予想 P E R (22.9 予)	9.5 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,871.5 円
P B R	0.86 倍
予想配当利回り	2.83 %
(1株当たり配当金 70.00円)	
R O E (21.9)	10.9 %
発行済み株式数	1,723 万株